

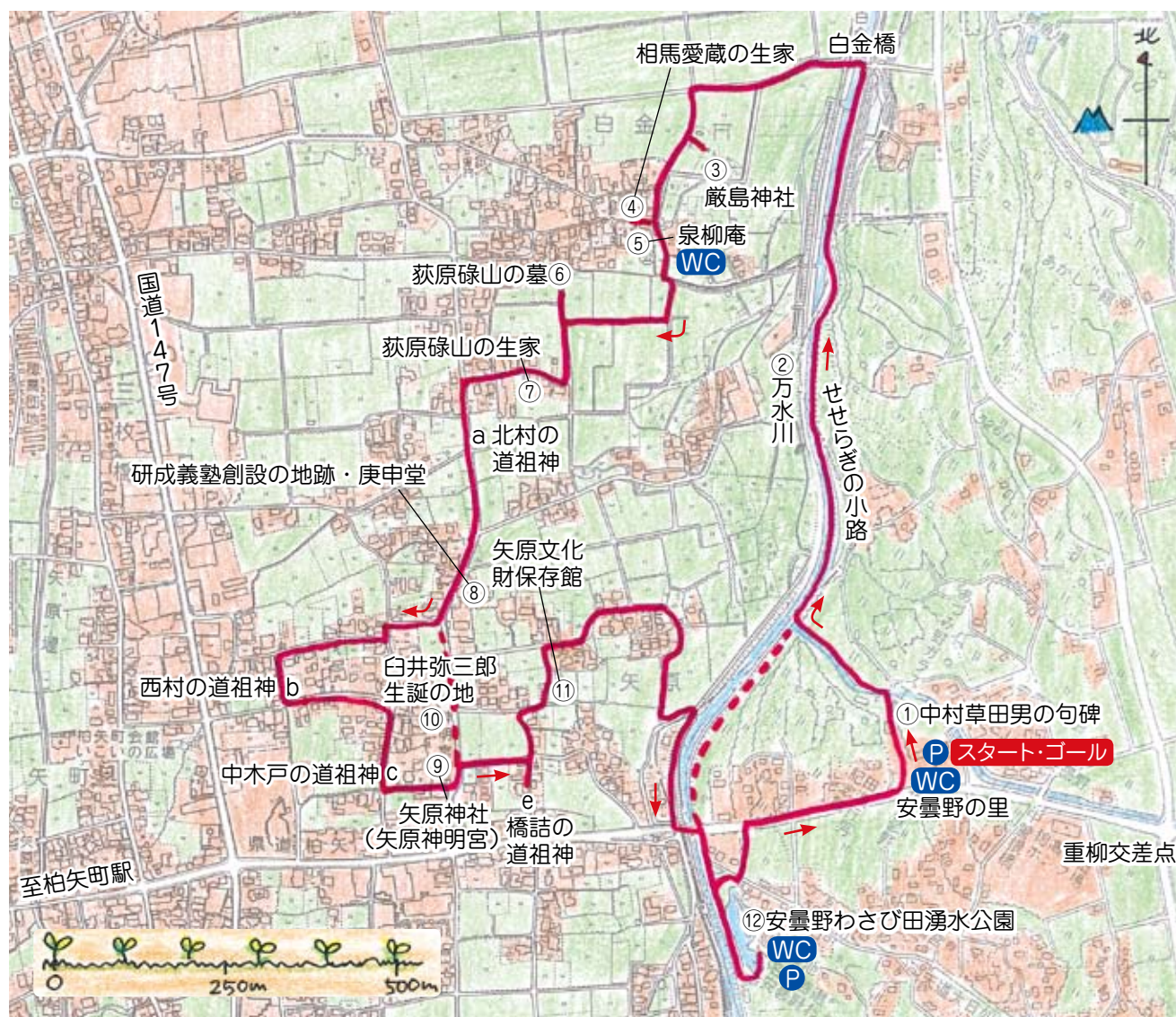
# No.1 穂高・白金矢原地区

——道祖神と偉大な歴史を作った先人を訪ねて——

ガラス工房などの施設が集まる「安曇野の里」を起点に、万水川、厳島神社、相馬愛蔵の生家、荻原碌山の墓と生家、湧水公園など、白金地区と矢原地区をめぐるコースです。個性的な8体の双体道祖神や矢原神社（矢原神明宮）・矢原文化財保存館などもあり、安曇野の古代からの歴史や自然の豊かさを感じる見どころがたくさんです。



矢原神社（矢原神明宮）



はしのつめ  
橋詰の道祖神

◆コースタイム ※時間は歩速 3km / 毎時としての目安です（休憩含まず）。

スタート 安曇野の里→約 1.7km\*35 分→厳島神社→約 0.2km\*3 分→相馬愛蔵の生家→約 0.4km\*10 分→荻原碌山の生家→約 0.5km\*10 分→研成義塾創設の地跡→約 0.8km\*15 分→矢原神社（矢原神明宮）→約 1.0km\*20 分→湧水公園→約 0.6km\*12 分→ゴール 安曇野の里【合計】 約 5.2km\*1 時間 45 分



荻原碌山の墓



相馬愛蔵の生家



せせらぎの小路



矢原文化財保存館



安曇野の里

### ①中村草田男の句碑

「安曇野の里」の敷地内にあり、俳人・中村草田男（1901～83）が安曇野で詠んだ「蜻蛉ゆくうしろ姿の大きさよ」の句が刻まれています。



### ②万水川

農業用水・拾ヶ堰の排水口である除沢を起点に、犀川に合流するまでの全長7.7kmの一級河川。安曇野の扇状地の湧水を集め、通年枯れることはありません。



### ③巖島神社

相馬家には河童から家伝の接骨術を伝授されたという伝説が伝わり、その河童を代々の家長がまつたという祠があります。現在は巖島神社としてまつています。



### ④相馬愛蔵の生家

相馬愛蔵（1870～1954）は良（黒光、1875～1955）を妻に迎え、洋風の新館を建てました（ふだんは非公開）。明治34年（1901）上京してパン屋の中村屋を開業。新宿駅前に進出し、多くの芸術家や文化人が集まる文化サロンができました。



### ⑤泉柳庵（白金）

川西（南安曇郡）三十四番観世音の第九番に当たる札所ですが、現在は無住です。庭には十余基の馬頭観音があります。



### ⑥荻原碌山の墓と⑦生家

日本に近代彫刻をもたらした荻原碌山（1879～1910）はこの村に生まれました。禁酒会の同志として相馬家を訪れ、愛蔵・良（黒光）に出会いました。墓の揮毫は画家・中村不折のものです。



### ⑧研成義塾創設の地跡 ※安曇野市史跡・庚申堂

明治31年（1898）、井口喜源治（1870～1938）はここに私塾「研成義塾」を創設し、キリスト教に基づく教育を始めました。奥の庚申堂には彩色された石像が安置されています。



### ⑨矢原神社（矢原神明宮）

この一帯は古代、伊勢神宮の荘園・矢原御厨（みくりや）があったところで、社殿の配置も天照大神をまつる神明宮の古い形式を伝えているといわれています。



### ⑩白井弥三郎生誕の地

矢原地区は、地味は肥沃でしたが水利の便が乏しい土地でした。江戸時代の矢原村の庄屋・白井弥三

郎（1621～90）は農業用水の開発を計画し、死を覚悟の上で松本藩を説得して許可を得、承応2年（1653）遠く犀川から水を引く難工事を完成させました。当初は弥三郎堰と呼ばれましたが、後に矢原堰と改められました。



### ⑪矢原文化財保存館

矢原周辺の遺跡からは弥生時代～平安時代の集落跡が発掘され、出土した遺物が展示されています。見学は要予約（連絡先：矢原区長）。



### ⑫安曇野わさび田湧水公園

この辺りは安曇野の扇状地の扇端にあたり、この公園にも毎分70㍓の水が湧き出しています。このような湧き水を利用して、一帯にはわさび畑や養殖池が多くあり、この地区の重要な産業となっています。湧水は「安曇野わさび田湧水群」として日本の名水百選に選ばれています。



## —— 白金・矢原の道祖神 ——

白金・矢原地区には8基の道祖神がまつられています。江戸時代から明治時代にかけて作られたもので、この地区には文字碑はなくすべてが双体像で、男女が手を取り合った握手像か、盃と瓢を持つ酒器像です。春の道祖神祭りに彩色されるものもあります。

安曇野豆知識 p.26



a 矢原北村の道祖神  
酒器像 安政5年(1858年)



b 矢原西村の道祖神  
酒器像 元治元年(1864年)



c 矢原中木戸の道祖神  
酒器像 明治25年(1892年)